

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	天龍峡保存管理計画推進管理事業	会計	一般会計	事業No.	761	施策順No.	63-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	0予算事業		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり	課等名			生涯学習・スポーツ課		
施策	63 地域資産の保存継承	事業期間	開始	17	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	名勝天龍峡指定地						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	名勝天龍峡指定地 (㎡)	236095	236095	236095	236095	236095		
対象をどう変えるか	意図	市の天龍峡に関する総合的な計画の策定に基づき個別の活用エリアを選択決定し、安全対策・保存管理及び整備計画を策定する							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		進捗率 (%)	80	90	95	100	100	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	保存管理計画策定が完了し、管理団体である飯田市として名勝天龍峡の適切な保存管理の方策を示すことができた。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	天龍峡は昭和9年名勝に指定されて以来、飯田市の観光のシンボリックな存在であった。その間、船の発着所・遊歩道・吊り橋・ホテルなどの施設を整備してきたが、過去数年来発生し続けている崖の崩落や落石により、安全確保が難しくなっている。このため、名勝天龍峡の適切な保存管理の指針として保存管理計画を策定する。また、これに基づき、十勝・石碑の活用、案内施設の整備など整備計画を観光課と協力して作成する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 国文化審議会・文化庁の指導を内容に反映後、保存管理計画策定書を印刷(印刷費用は観光課で対応) 2 文化庁との協議 3 委員会の開催	1 印刷部数 2 協議回数 3 委員会開催回数	1 300部 2 2回 3 1回
23年度実施計画	1 策定した保存管理計画に基づく適切な保護措置を実施 2 名勝天龍峡に係る文化庁協議 3 必要に応じ名勝天龍峡保護活用協議会の開催	1 保護協議回数 2 保護協議回数 3 委員会開催回数	1 3回 2 2回 3 1回

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源				
		計 (A)	0	0	0	
		正規職員所要時間		1,000		
		臨時職員等所要時間				
		人件費計 (B)		3,576		
		トータルコスト A+B		3,576		

4 事業に対する市民や議会の意見

平成16年6月に天龍峡観光開発調整推進協議会により「天龍峡遊歩道、船着き場付近の落石、崩落対策に関する要望書」が提出された。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域資産が保存・継承される	施策の成果指標又はムトス指標	保存・継承している地域資源の数
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	保存管理計画の策定により、名勝の持つ本質的価値と構成要素が明確化され、それらを適切に保存管理していくための基本的な方針や具体的な現状変更等の取扱基準を定めると同時に、今後の整備活用の方針とその運営の方策を示すことができた。		
	後期に向けた課題	保存管理計画に示された名勝天龍峡の価値及び保存管理手法の普及啓発活動が必要となる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	保存管理計画策定委員会、名勝天龍峡保護活用協議会からの資料提供を受けて原案を作成し、同委員会での審議を経て策定した。		
	後期に向けた課題	名勝天龍峡保護活用協議会を継続し、名勝天龍峡保存管理計画の適切な運用に取り組む必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	策定書作成にあたっては、策定委員の協力を得ることによって外部委託を極力抑えた。		
	後期に向けた課題	保存管理計画の周知に関し、チラシ作成などの外部委託を極力減らすことによってコスト削減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	名勝天龍峡は飯田市が管理団体に指定されており、保存管理計画の策及びその運営は管理団体である市が実施すべき事業である。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①川路・龍江・千代のまちづくり委員会・地域づくり委員会の代表及び観光団体代表者が保存管理計画策定委員会、名勝天龍峡保護活用協議会委員として参画しており、保存管理計画の内容等に関して審議を行ってきた。 ②資料の事前送付及び前回会議の内容確認をその都度行い、継続的な審議が行われるようにした。		
	後期に向けた課題	地域及び団体の代表者が、引き続き保存管理及び整備に関する審議に参画いただくことによって、地域と名勝天龍峡との結びつきを更に強めていく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	事業実施により、管理団体である飯田市として名勝天龍峡の適切な保存管理の方策を示すことができた。		
	後期に向けた課題	保存管理計画に示された保存管理の方策及び具体的な現状変更等の取扱基準を適切に運用し、あわせて整備計画及び活用策の実施が必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--